

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174200624		
法人名	有限会社 かみさと介護ステーション		
事業所名	グループホーム かみさと		
所在地	埼玉県児玉郡上里町大字七本木291番地1		
自己評価作成日	平成25年1月25日	評価結果市町村受理日	平成25年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action_kouhvu_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=1174200624-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社シーサポート
所在地	埼玉県さいたま市浦和区北浦和3-6-9
訪問調査日	平成25年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとつの家庭として、利用者・職員、共に生き生きと日々の生活を送っていると思っております。また、日中は鍵をかけない事や建物の回りにフェンスが無いことにより、開放的なので心身ともに伸び伸びと出来ていると感じております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・以前果樹園だった場所に立地している名残から今でも果樹が植えられており、「太陽の日差しがある・のどかで・広々とした」ホームとなっている。また内装も天井が高く、運動ができるほどの廊下を有しており、入居者がのびのびと生活できるスペースとなっている。
- ・運営推進会議において話し合いが重ねられる中「災害時に近隣の方が入居者を判別し、救助しやすくするためのカード」の設置が発案され、実現している。自然なかたちでいくつものアイデアが実行されており、入居者を温かく見守るとともに牽引する推進力を有している。
- ・明るく元気な職員により食卓やレクリエーションが楽しく快活な場となっている。また職員により頭髪のカットや服装への配慮がなされており、身だしなみやおしゃれにより生活を楽しくしてもらえよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が、日常生活を送るのに支障のない様、援助を行い、地域の方々との交流を大切にしております。	「和」の字のごとく穏やかに・気取らないケアの実施を理念に掲げ、掲示等により周知が図られている。入居者の行動や言動を否定しない介護について指導に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加をしたり、近隣への買物へ出かけています。	散歩の際の近所の方への日常のあいさつ、秋祭りなど行事への参加、小学生の施設見学などの交流が育まれており、地域に馴染むよう支援に努めている。	「ホールでのボランティアの方々の発表」・「運営推進会議への消防署の招待」などのアイデアがあり、運営や職員への負担を考慮しながら実現されていくことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買物等で外出している為に、地域の方々にもあいさつなどで理解を示して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の方からの要望や意見を述べる場として活用したり、施設側からの利用者の様子を連絡する場としております。	あらかじめ年6回の開催が計画されており、地域包括支援センターや地域の方が集い話し合いが行われている。会議の中で、「災害時に入居者を判別し、救助をしやすくするためのカード」について話し合いが行われ、作成が実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	最新の情報を入手するよう心掛けております。	行政の窓口に出向き入居者の相談をするなど関係性の維持に努めており、施設見学など小学校等行政機関との交流も積極的に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から「鍵はかけない」としており、鍵をかけてしまう事へのデメリットについて、職員間で話し合いをしています。	日中は玄関の鍵をかけておらず、丁寧な見守りにより安全と拘束のないケアの両立に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者のケアにおいて、これは介護者側の都合を押し付けているのではないかとケアの在り方について常に話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には、関係者よりの情報を入手するよう心掛けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問時には、常に対応を心掛けております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ご家族からの要望を伺ったり、利用者の身体状況など日常の様子を伝えたりしております。	家族の面会時には、生活状況や健康状態などを話し、その際に要望や希望を聞くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場での生の意見なので、常に聴き入れ、改善できるところは改善へと話し合いを持ち決定しております。	全体会議が定期的開催され、話し合いや指導が行われている。また職員全員が集合することが困難なため、連絡ノートを使い、情報共有と意見交換を図るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の雰囲気や業務遂行に支障の無い様に働きかけをしています。また、職員の健康管理にも配慮しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	気分よく働ける職場であれば、職員が自ずと向上心を持ってもらえるのではと思い、認知症についての資料やケアに関する雑誌の購入をしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修への参加に努めております。また、ホームでの定期的な職員勉強会の開催をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とのコミュニケーションの構築に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話しを全て受身で伺い、ひとつずつ解決策を導きだすように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、ご家族との話し合いを持ち、どのような援助を希望されているのか、また、どのようなケアが必要なのか、見極めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ひとつの家族として相手を思いやり自尊心を傷つけない様な支援を心がけております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と協力し、当人が施設で心穏やかに暮らせる方向性を導き出してしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を限定していない事により、ご家族を始め、親戚や友人が何時でも逢いに来られる様、配慮しております。	家族・友人・親戚の方などの面会や電話連絡、馴染みの商店や美容院への往訪などの支援を通し、入居者以外の方との関係の構築と維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入り、話題作りやレクリエーションを行い、利用者が心穏やかに過ごせる様配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後や亡くなられてしまった後、そのご家族と今でも交流があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	雑談時にコミュニケーションをとりながら、当人の希望を聴きだすようにしております。また、困難な場合などには、ご家族の意向等を聴き入れ検討しております。	「本人の行動や言動について否定をしない」よう職員への指導が行われており、家族からのヒアリングを通して入居者の意向と要望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	当人の生活歴を知り、場所は変わってしまいましたが、生活習慣の変化を極力抑えた支援を職員一同努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当人の心に寄り添う援助に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の生活歴を考え、どの様に支援を行えたのなら施設で穏やかに生活が送れるのか、という事を根底におき、作成に努めております。	ケアプランの見直しにあたっては、職員全員の意見が聞けるようフォーマットが作成されており、カンファレンスを経て集約がなされている。生活全体を通して身体・機能の低下を抑制し、穏やかな生活がおくれるよう配慮したケアプランの作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経営者や職員と共に、介護の在り方を勉強し、ケアの質の向上につながる様努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当人が、地域の中で自分らしく生活できる様に援助を行い、ご家族にも開放的な施設として認めていただける様努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設前にある消防署や裏手にある集合住宅に協力要請をしており、利用者が安全に生活できる様支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の相談のもと、疾患に合った病院を選択しております。	月に1回の通院については職員が同行し受診後は家族に対して結果と健康状態の報告をするなど、医療機関・家族と連携して健康の増進に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期受診をし、病気の予防に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ADLの低下や認知症の進行緩和に、病院の主治医と相談をし、早期通院に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者に治る見込みの無い疾患が見つかった場合には、ご家族と相談のもと、ご家族の意見を反映しております。	重度化と終末期への対応については、入居時を中心に家族に対して「ホームでできること」を説明し、理解に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の勉強会を開催しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	経営者側や地主の自宅が施設と近いことの特長と消防署が隣接していることにより、災害対策としての協力体制が整っています。	近隣の住宅への災害時協力の承諾、通報装置とスプリンクラーの設置、災害時の職員役割分担表の掲示などがなされている。隣の消防署とは敷地の境に壁もなく、入居者と職員に安心をもたらしてくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を損ねないように言葉を選び声かけを行っております。	排せつの記録表には、介助時の注意事項としてトイレへの誘導時の声掛けへの配慮などが記載されており、記録自体もアルファベットを使用するなどプライバシーへの配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から当人の思いを聴き出して、その中から自己決定できる様に支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはありますが、当人の希望や体調、及び天候等によりスケジュールの変更をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の割合で髪のカットを行ったり、衣服においては、利用者と一緒に選んでおります。時に、一部調整等を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンにて手伝う事が可能な方は、野菜切り等のお手伝いをして頂いております。食事は、円卓を囲み職員も一緒に食事しております。	「入居者全員が座れる・二つに分かれ、職員が介助しやすい」円形のテーブルが設置されており、職員と会話をしながら、また野菜を切るなどできることはなるべくしてもらいながら皆で楽しい食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に、職員の見守りの元、個々に行っております。時に、訪問歯科を利用しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	当人のレベルに合わせた介助を行っております。排泄チェック表を用いております。	センサーによる見守りや時間での誘導などにより自立支援に努めており、なるべく薬を使わない便秘の予防にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼る事なく運動や食事に対応をし、身体的に低下が認められた方に関してだけ、医師の指示のもと、下剤の服用をしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回16:00～行っております。但し、利用者より希望があれば別の時間帯にも対応しております。季節の花やゆず・温泉の素等を使用し楽しんでおります。	広い浴室にて夕方の時間帯を使い、「ゆっくり・のんびり」とした入浴により、清潔とリラクスのための支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には、布団を干し、気持ち良く休めるよう支援しております。また、寝具等の洗濯においても不定期ではありますが、チェック表を用いて漏れの無いよう対応し、衛生面での配慮もしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者服薬一覧ファイルにて、職員一同、目を通しやすいようにしております。服薬については、職員2名にて確認し、誤薬の無いよう援助しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	当人の得意分野を活かして、穏やかに過ごせるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩や近くへの買物等の短時間の外出をしております。また、遠方への外出においては、事前に計画を立て行っております。時に利用者の希望を聴き入れての計画もあります。	日常の中で近隣への散歩や買物などの外出により気分転換と健康増進が図られている。またあらかじめ年間の行事計画が立てられており、季節の催しなどを入居者みなで楽しむよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方のみ、お買い物に出かけております。職員の見守りの元、自ら支払いをして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当人からの希望があった場合には、対応をしております。また、ご家族からの電話には、当人を電話口まで誘導し対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝の掃除時には、窓を開け空気の入れ換えを行っております。また、ホールには花を飾るなどし季節感を味わえるよう心掛けております。	広い廊下・高い天井・大きな窓など心地よく暮らせるためのスペースが確保されており、生花や絵などが適度に飾られ落ち着いた雰囲気のある共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの中央の円卓は、各自座る場所が決まっております。でも、南側のソファはその時々で個々に好きなところへ腰を下ろして頂くようになっております。出窓スペースでは、休憩や談話の場所として利用されております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた家具等の持ち込みをして頂いております。また、趣味の物等も危険性の無い物であれば持って来て頂いております。	広く・清潔な居室には鏡台やベッドなど使い慣れた家具が持ち込まれている。日中はリビングに出ていることが多く、夜間ゆっくりと休むためのスペースとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた責任感のある仕事をして頂き、自立ある生活を支援しております。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進委員会について、最低限の回数ではあるが、年間6回の開催を実行できている。このまま継続できるよう努力する。	前期開催においてのメンバーに、さらに地域住民の出席を依頼する。	職員全体会議を3/7に開催し、協議しました。結果、来年度の運営推進委員会の開催予定日を決めました。また、地域住民の方々にも開催の案内状を送ってみる。	12ヶ月
2	33	利用者の高齢化に伴い、ケアの見直し等については、その都度、職員間で話し合いを行なっている。でも、重度化及び終末期のケアについて知識を深める必要性を感じている。	職員は、ケアの質の向上に努める。	時に勉強会を開催し、職員の知識向上に努める。また、その事が実践できるよう努力する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。